

3 年 生 課 題 研 究 感 想

3 年 4 組 1 0 番 加 藤 舞 那

私は一年生の時に初めて交通量調査を行い、長い時間椅子に座って車の台数、通行人をカウントするのは、常に車や人の動きを見ていなければならないので、すごく大変な作業だと思いました。しかし、この活動が豊橋市の発展のための重要な資料となることを知り、とてもやりがいを感じました。そこで三年生になり、交通量調査を選択しました。

私たちは、交通量調査に必要なカウンターやバインダー、集計用紙などの用意、班長会で一年生への交通量調査の説明、交通量調査の冊子の作成など様々な活動をしました。特に班長会の準備が大変でした。一年生に配布するプリントを調査場所ごとに班の人数分揃えて封筒に入れるという作業では、間違いのないよう枚数や調査場所を何度も確認しました。また、班長会ではどんな順番でどんな言葉で説明すれば一年生に伝わるかを考え、一年生の様子を見ながら進めることが出来ました。

交通量調査当日は、一年生が調査を行っている場所をまわり、調査場所や様子を今後使う資料に載せるための写真を撮りました。場所が分かりやすいように、周りの建物がしっかり見える方向から撮影したり、通行人の迷惑にならないよう気を付けて撮影することを心掛けました。調査場所を回りながら、GPSロガーという、自分の位置情報を記録する機械を使って、ゴミ捨て場の位置を調べました。この機械は高い建物に囲まれている場所ではうまく記録することが出来ないので、できるだけ記録することができそうな広い通りを通るようにしました。愛知大学で初めてGPSロガーという機械を見て使ったとき、なんの役に立つのだろうとと思っていたのですが、ポストやゴミ捨て場、自動販売機などのある位置で記録することで、どのくらいの間隔で置かれているかを調べる事が出来るということに気づきました。すごく小さくて、ボタンが一つ付いているだけの機械なのに、とても便利なものだと思いました。

私はこの課題研究の活動をとおして、交通量調査の重要さと大変さを学びました。初めは、IT化している世界で交通量調査もコンピュータで行う方がいいのではないかと考えていましたが、人間が行うことで、道路の凸凹や車のスピード、信号の変わるタイミングなど細かなところまで見て、問題に気が付き、改善することが出来ると思いました。集計はミスのないように何度も確認するのが大変でしたが、私たちの活動が今後の豊橋の発展に繋がると思うと、頑張って良かったなと思います。